

令和6年度 研究推進計画

1 研究主題

思いを伝え合うことを通して、言葉の力を身に付ける児童の育成

2 主題設定の理由

本校では、令和4年度から、「言葉の力を身に付け、思いを伝え合う児童の育成」を研究テーマとして取り組んできている。本校の児童は、獲得している言葉の数の乏しさから、学習の場で自分の考えを分かりやすく表現できなかったり、生活の場で自分の思いを気持ちに合う言葉で伝えられずにトラブルが起きたりといった、言葉の力の無さによる課題が多く見られた。そのため、語彙を増やすとともに、言葉を適切に選び、自分の考えを理由付けながら話したり、友達の考えをよく聞いて受け入れたりする力を身に付ける必要があると考えた。また、学習の中で言葉の力を身に付けることによって、自分の考えを広げたり深めたりすることも大切にしている。そして、そのような日々の学習の積み重ねが普段の生活に表れていけば、友達とうまくコミュニケーションをとることができるようになると考えた。

そこで、研究の手立てとして、次の3つの柱で研究を進めてきた。

1つ目は、学習の基盤づくりである。社小の学習スタイルを具体化し、学習へ臨む態度を大切にしてきた。学習のあいさつや職員室、保健室への入り方、話型や話し方・聞き方の合い言葉を共通理解したことで、言葉を意識して話せる児童が増えた。しかし、個人差が大きく、適切な話し方ができない児童や、「聞く」ことができない児童もいるという実態があり、引き続き指導を続けていく必要がある。

2つ目は、国語科を中心とした授業づくりである。授業の中で、考えをもち伝え合う場を設定し、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いて深めたりできるような授業づくりをめざしてきた。また、講師の勝見先生のご指導により、3点のポイントを意識して授業づくりをした。1点目は、魅力ある単元づくりである。「書けない、読めない、聞けない、話せない」ではなく、児童が「書きたくなる、読みたくなる、聞きたくなる、話したくなる」ように、導入や単元計画、言語活動を工夫し、魅力的な単元をデザインすることを心がけた。2点目は、わくわくする活動だけでなく、国語科として考えを深め賢くなるために、教師が何を指導するか、という指導事項や教師の出場である。学習指導要領を基に、どんな力をつけるのかを明確にし、そのために教師がどのようなかわりをするかについて、授業研を通して考えた。3点目は、授業の中でどのような質の深まりが起きたかを授業研で考察することである。全校研でも部会研でも、授業記録を基にして、子どもの変化や深まりを見取る授業研になるよう意識してきた。成果としては、魅力的な単元づくりを全員が取り組んだことで、指導すべきことや身に付けさせるべき力を明確にして授業づくりをしたり、児童にとって目的達成のために必要な力を児童に自覚させながら単元を進めたりできたことである。そして、2年間でたくさんの単元が実践できたことで、今年度の学習に生かすことができる。課題としては、授業の中で「児童に力がついたかの確かめ」を事後にどこまで振り返られたのかという点が挙げられる。個々の考え方のズレを生かし、児童の発言の意味付け・価値付けができたか、自他の違いや異なる着眼点について意識させられたか、指導の過程で質を高められたかという点を事後に話し合い、児童の学びが深められたかを具体的に見取る必要がある。昨年度の児童アンケートの結果からは、「話し合い活動が好き」と答えた児童が95%以上と大変多く、話し合う機会が多くもっており、意欲的に取り組んでいることが分かった。話し合う活動を通して、話す、聞くなどの言葉の力を更に育てていきたい。「国語の学習が好き」と答えた児童は学年によってばらつきがあった。一方で、「国語の学習が大切だと思う」と答えた児童は一昨年度同様 90%以

上となっており、国語はあまり好きではないけれど国語を大切に思っている児童が大変多いことが分かった。この思いを大切に、今年度も授業づくりをしていきたい。

3つ目は、基礎学力の向上である。朝の学習タイム、授業中、宿題などを中心に取り組んだ。3年生以上の学力調査の結果では、どの学年でもD層が減り、学力の底上げができてきた。しかし、国語、算数ともに市の平均を下回る学年が多く、基礎基本のみならず、思考面での学力に課題があるといった現状が続いている。

そこで、今年度も考えや思いを伝え合う機会を多くもち、語彙力や思考力をつけていくというねらいで、「思いを伝え合うことを通して、言葉の力を身に付ける児童の育成」とした。2年間続けてきた、国語科の授業づくりの3つのポイントを大切にするとともに、今年度は、「児童にどんな力がついたかの確かめ」についても授業研を通して更に考えていく。そして、生活の場においても、他者の思いを受け止めたり気持ちの折り合いをつけたりしながら思いを伝え合えるような児童が育つことを願い、特に「聞く」ことを大切に指導を続けていく。基礎学力定着については、根気強く地道に続けていくことが不可欠である。各学年の実態に応じて、学習時間や内容を工夫して、目に見える基礎学力を上げていくことをめざし、分かる喜びが感じられるように取り組んでいきたい。

3 めざす児童の姿…「思いを伝え合う児童」とは

〈学習の場〉

・低学年

自分の考えをもち、理由とともに話すことができる。

友達の考えを、感想をもちながら聞くことができる。

・中学年

友達と比べて聞き、似ているか違うかをはっきりさせて考えを話すことができる。

・高学年

友達と比べて聞き、どこが似ているか、どこが違うかをはっきりさせて話すことができる。

友達の考えに関連付けて、自分の考えを話すことができる。

〈生活の場〉

自分の思いを気持ちに合う言葉を選んで表現し合い、他者の思いを受け止め、相手と気持ちの良いコミュニケーションをとることができる。

4 研究の内容

(1) 学習の基盤づくり

① あいさつ

ア 学習のあいさつ ※社地域に合わせる

〈第1ステージ〉1～4年

初め 「姿勢を正しましょう。」体を止め、目を合わせる

「今から、〇〇(教科)の学習を始めます。」

『始めます。』

終わり 「姿勢を正しましょう。」

「これで、〇〇(教科)の学習を終わります。」

『終わります。』

〈第2ステージ〉

- 初め 「姿勢を正しましょう。」体を止め、目を合わせる
「今から、〇〇の学習を始めます。」 礼をする
終わり 「姿勢を正しましょう。」
「これで、〇〇の学習を終わります。」 礼をする

イ 〈職員室、保健室での入り方〉

- ・「失礼します。〇年〇組の〇〇です。〇〇先生はいらっしゃいますか。」
- ・「失礼します。〇年〇組の〇〇です。～を取りに来ました。」
- ・「失礼します。〇年〇組の〇〇です。～で来ました。」

ウ 〈インターホンの出方〉4, 5, 6年

- ・「はい、〇年〇組〇〇です。〇〇先生はいらっしゃいません。」
(職員もインターホンに出るときは名乗る)

②話形→教室前面の見えるところに掲示

ア 低学年

- 「はい、わたしは、～だと思ひます。どうしてかという、～だからです。」
「わたしは、〇〇さんの話を聞いて、～と思ひました。」
～と分かりました。」

イ 中学年

- 「はい、わたしは、～だと思ひます。なぜかという、～だからです。」
「〇〇さんと似ていて(違って)、わたしは～だと思ひます。なぜかという～だからです。」
「〇〇さんに付け足して、～だと思ひます。なぜかという～だからです。」

ウ 高学年

- 「はい、わたしは、〇〇さんの～というところが似ていて(違って)～です。なぜかという、～だからです。」
「わたしは、〇〇さんと同じ意見ですが、理由が違ひます。わたしは、～。」
「〇〇さんに付け足して(つなげて)、～だと思ひます。なぜかという～だからです。」

③はきはきと、張りのある声づくり…朝の会など、しっかりと声が出るように各学級で取り組む、

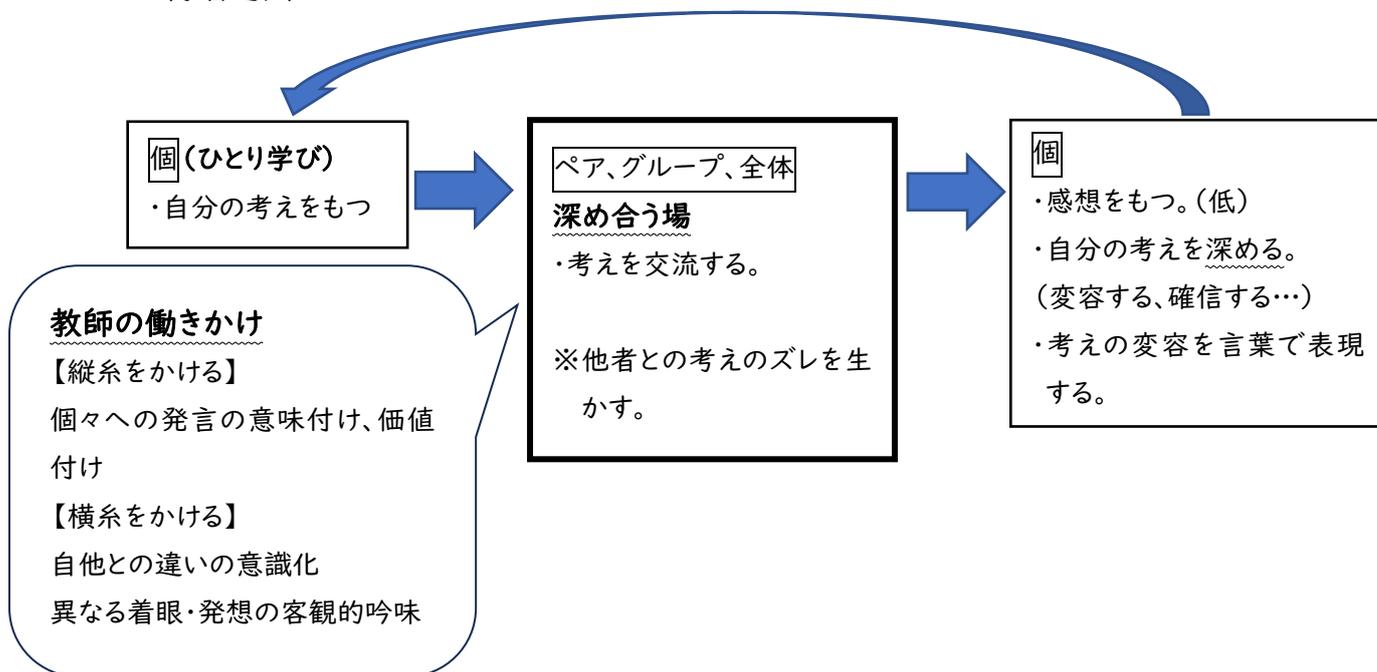
④話し方、聞き方…合い言葉 話す「ゆっくり はっきり 最後まで」 →教室前面の見えるところに掲示
聞く「目を見て うなずき 最後まで」

⑤「気持ち(心情)を表すことば」の掲示

- 国語の教科書にある「言葉の宝箱」より、「気持ちを表す言葉」を各学年5つ選んで掲示。
たくさん言葉があるので、児童に使わせたいプラスの言葉を選ぶ。教師も言葉を意識して使っていく。
掲示場所は、教室の前方入り口上の窓。

(2) 授業づくり

①国語科での、「考えを伝え合う」場の設定…考えの交流・深め合い
 〈学習過程〉

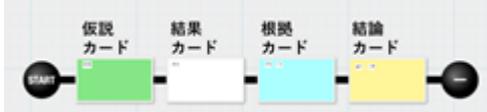


②魅力ある単元づくり

児童が「書きたくなる、読みたくなる、聞きたくなる、話したくなる」ような、導入や単元の計画、言語活動と
 いった魅力的な単元をデザインする。

【令和4年度 実践まとめ】

学年	領域	学期	教材名	単元名	言語活動(簡単にまとめて)
1年	読む	2	どうぶつの赤ちゃん	どうぶつの赤ちゃんはかせになろう!	どうぶつの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を読み取り、博士になり切って、友達に伝える。
1年	読む	2	うみのかくれんぼ	「いきものひみつカード」を作り、友達に紹介しよう。	うみの生き物の隠れ方を読み取ったり、文中から想像して発表したりする。また、事例を比べて気付いたことを発表する。
1年	読む	2	じどう車くらべ	くらべてよもう	じどう車の「しごと」としごとのために必要な「つくり」を読み取る。そして、選んだ車について説明する文章を書く。
2年	読む	2	スイミー	主人公ってすごい!~スイミーのすごさ、しょうかいます~	主人公に焦点を当てて、スイミーのすごいところを見つけ、4年生にお話を紹介する。
2年	読む	2	お手紙	音読劇をしよう	主人公の会話と行動に焦点を当てて、心情を想像し、音読に生かす。

2年	書く	2	馬のおもち ゃの作り方	説明の仕方に気をつけて 読み、それを活かして書こ う	説明書に使われている工夫を見つけ、その工夫 を活かして自分の作ったおもちゃについての説 明書を書く。
3年	書く	2	すがたをか える大豆・食 べ物のひみ つ教えます	説明の技を使って「食べ 物へんしんブック」を書こ う	「すがたをかえる大豆」の筆者の説明のしかた のくふうを見つけ、そのくふうを使って食べ物につ いて説明する文章を書く。
4年	読む	2	ごんぎつね	読書の秋!学級ブックト ークをしよう~登場人物の 気持ちをさぐる~	「きつねのおきやくさま」「手ぶくろを買いに」から 1冊選んで読み、友達とブックトークをする。
4年	書く	2	伝統工芸の よさを伝え よう	伝統工芸のよさを伝える リーフレットを書こう	伝統工芸のよさについて調べ、理由や例とともに リーフレットにまとめ、友達、保護者、地域の人に 知らせる。
5年	読む 書く	2	固有種が教 えてくれるこ と	小学生に携帯電話は必 要なのか~資料を用い て、意見文を書こう~	教材から説得力のある意見文を書くためのコツ をつかみ、自分の意見文を書く。
6年	話す・ 聞く	2	みんなで楽しく 過ごすために	1年生と交流しよう	目的や条件を踏まえて話し合い、結論をまとめ る。
理科		2		6年 水溶液の性質	各班で、「仮説」「実験結果」「根拠」「結論」4 つのカードを作成し、それらをつなげて発表する。 
音楽 5年	鑑賞	3	ソーラン節 刈り干し切 り唄	日本の音楽 民謡	聴いた時の感じ(明るい・やさしい)の違い、その 理由(リズム・速さ・旋律)を考え、言葉で伝えあ う。
きらき ら1組	話す	2	viscuit	よってらっしゃいみてらっ しゃい ~きら1ゲームセンターで楽しく遊んでもらお う~	Viscuit で製作したゲームの紹介をしたり説明 をしたりしてコミュニケーションする。
きらき ら2組	話す	2	山小屋で三日 間過ごすなら	「山小屋で三日間過ごす なら」	山小屋で三日間過ごすなら、何をしたいか、話し 合って三つ決める。
きらき ら3組	話す	2		「お手伝いに挑戦しよう」	手順を説明しながら、実演し、お手伝いを分かり やすく紹介する。
きらき ら4組	話す	2		「自分の苦手」大研究	自分キャラについて、具体例や経験談を交えて、 相手に分かりやすく説明する。
通級	読む	全	全	各学年の「読む」の単元	各学年「読む」の単元を通して、気持ちを考える 際に1文から2文、3文に表現を増やす取り組 みを行った。

【令和5年度 実践まとめ】

学年	教科	学期	教材名	単元名	言語活動(簡単にまとめて)
1年	国語	2	じどう車くらべ	じどう車ずかんをつくらう	本文の書き方を生かして、気に入った車の「しごと」や「つくり」をまとめる。
1年	国語	2	うみのかくれんぼ	うみのいきものずかんをつくらう	本文の書き方を生かして、調べた生き物について「体のつくり」や「隠れ方」についてまとめる。
2年	国語	2	お手紙	音読劇をしよう	心情を読み取り、読み方の工夫を考え、劇にする。
2年	国語	2	うまのおもちのつくりかた	おもちの作り方をせつめいしよう	作ったおもちを、順序を表す言葉を使って、説明書を書く。
2年	国語	2	おはなしの作者になろう	ものがたりを書こう	登場人物の性格や出来事を自分で考え、「はじめ・中・おわり」の構成で話を作る。
3年	国語	1	まいごのかぎ	りいこと自分を比べ、感想を伝え合おう	・気に入った表現や言葉を使って会話をする。 ・グループトーク
3年	国語	2	すがたをかえる大豆	食べ物が変身する?~すがたをかえる〇〇を紹介しよう~	筆者の説明の工夫について学び、それを生かしてすがたをかえる食べ物について、文章にまとめる。
3年	外国語	3	What's This?	クイズをつくってクイズ大会をしよう	What's this? It's . クイズをつくり、友達と出し合う。
4年	国語	1	一つの花	心に残った場面を伝えよう	詳しく読んで心に残った場面を中心に感想を書く。
4年	国語	2	ごんぎつね	物語の登場人物になりきって日記を書こう	毎時間ごん日記を書いた。
4年	国語	2	世界にほこる和紙	推しに伝えたい! いいこといっぱい伝統工芸	伝統工芸のよさを伝えるリーフレット作り。
5年	理科	2		ふりこのきまり	導入時に、「ブランコを立ってこぐのと座ってこぐのとではどちらが1往復する時間が短いかな。」と発問し、仮説を立てる。この問いをもとに、科学的な実験を行い、規則性を導いた後、この問いの結論を導く。
5年	国語	1	言葉の意味が分かること	文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう	第9段落の内容をとらえた後、第10段落の必要性を問うことで、事例の適切性について考えることができた。
6年	国語	1	森へ	私と本~心ひかれるみ力をもつ「推し本」を紹介しよう~	「推し本」を交流し合うことで選書に対する視野を広げさせ、「推し本マガジン」にまとめる。

6年	国語	2	『鳥獣戯画』を読む ／日本文化を発信し よう	日本文化の良さを発信する パンフレットを書こう	説明文の表現や論の展開の工夫を捉えて 読み、そこで学んだ表現の工夫を活用して、 調べたことをパンフレットにまとめる。
きらきら 1組	国語	2	ことばでつたえよう	お絵かきゲームをしよう	ことばで正しく絵を伝える活動。
きらきら 2組	自立 活動	2		きらきらおもちゃランドを開 こう	コミュニケーションの育成。
きらきら 3組	自立 活動	2		きらきらおもちゃ王国を作ろ う ～おもちゃも!乗り物も!わく わくいっぱい～	Viscuitでおもちゃを作る活動を通してコミ ュニケーション力を高める。
きらきら 4組	自立 活動	2		きら4お楽しみ会をしよう	賛成・反対意見を、理由を添えて言う。
5-2	体育	2	体づくり運動	コンビネーションなわとびの 発表会をしよう!	「美しさ」を意識して、オリジナルのなわパフ ォーマンスをつくる。
3-3	書写	1	漢字の筆使い①	〇〇名人になろう ～筆圧の強弱と筆使いに気 をつけてから	前時の筆使いのポイントを習字の用語を用 いて自己評価、他者評価する。

③指導事項と教師の出場→児童の質の深まりの考察

国語科として考えを深め賢くなるために、教師が何を指導するか、ということである。学習指導要領のどの力をつけるのかを明確にし、そのために教師がどのようなかわりをするかを考え、「児童に～な力をつけるために～する」という授業者の思いを指導案に表す。

事後研において、国語科としてどんな力がついたのか、教師の働きかけが効果的だったかどうかを考え、教師の出場について深める。また、授業記録を基にして、子どもの変化や深まりを見取る。

児童につけさせたい力 ⇒ 教師の働きかけ

「児童に～な力をつけるために ～する」

④児童に力がついたかの確かめ(評価)

・成果物としての表現をどう見るか。(過程で質を高める)

ゴールの成果物で評価しない。1時間の中で、どう質を高められたかに目を向ける。

・単元テストを作る。

教師→指導したことを評価する 児童→学んだことを問われる

必ずしもではない。挑戦できたらやってみる。

(3) 基礎学力の定着

①定着させたい基礎学力

- ・言葉の力(語彙力) ・漢字・計算力 ・音読力 ・作文力 ・文法の理解 ・英単語(5.6年)
- ・タイピング練習(ローマ字学習後)、ソフトの使い方の練習

②朝の学習タイム

- ・月曜日の朝学の時間は、読書の時間とする。
(きらきら学級の児童も交流学級で読書)
- ・各学年で、どんな力をつけることが必要かを明確にして学習時間、内容を検討する。
- ・国語力・語彙力向上のためのプリント集を活用する。

【令和5年度 朝学の取組】

1年	・毎日の漢字学習 ・再テスト(カタカナ・漢字)
2年	・ドリル学習 ・宿題 ・九九カード ・再テスト
3年	・漢字の小テスト ・算数の復習プリント
4年	・ミニ作文(言葉の宝箱を使って) ・算数の復習プリント
5年	・(算数)公式を書く、声に出す、フラッシュカードにするなど定着の取組。 ・プリントの直しをする。 ・漢字学習を自分に合った進度で進めることで、学習意欲を高め、習熟をはかる。
6年	・帰る前プリント ・言葉の宝箱の言葉を使った作文 ・漢字の50問テストで満点になるまで反復練習した。
きらきら 1組	・短い文章で書かせる。・コグトレ、漢字テスト、復習プリント。 ・ことばあそび(3 ヒントクイズ・あるなしクイズ・伝言ゲーム・オノマトペ)
きらきら 2組	・授業のはじめの時間で、計算カード、漢字カード、漢字カルタのドリル的要素を取り入れていった。
きらきら 3組	・コグトレ、計算プリント・アプリ、ことばのプリント
きらきら 4組	・プリント(コグトレ、文法等のことば、計算) ・漢字カード(読み方・意味)
通級	・九九・ミニプリント・ノートへの視写(短文10行まで)を丁寧に。
ステップ	・読み書き・計算を個に応じて、学年をさかのぼって基礎基本の復習。

③帰る前プリント

- ・終わりの会の後、「帰る前プリント」を学年の実態に応じて実施。
- ・内容は、1分程度で解き終わるような簡単な内容とし、続けることで学力の定着を図る。

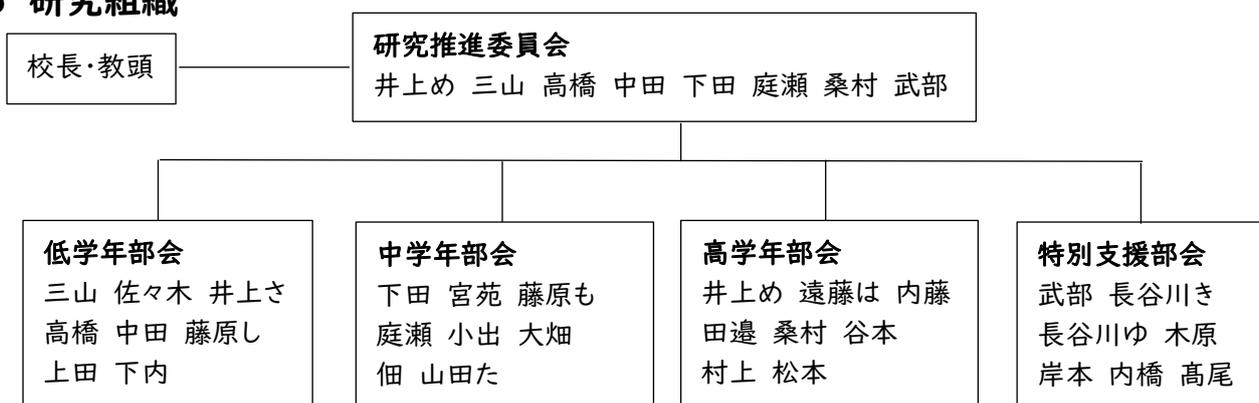
④家庭学習

- ・「家庭学習の手引き」(社学園版)を全校生配布し、家庭学習を習慣付ける。
- ・各学年で「自学メニュー」を作成し、自学ノートの表紙裏にはって参考にする。
- ・職員室前掲示板に、毎月、各クラスでおすすめの自学を掲示する。クラス、児童名を明記。
児童が自由に見られるように、画用紙(学年カラー)にはって更新していく。→5月から実施
- ・よい自学を各学年の廊下や教室にはって、児童に紹介する。更新は適宜。無記名。

⑤授業UDの実践

具体的な実践紹介の研修を行う。

5 研究組織



〈授業研究について〉

- ・部会は学年層(低・中・高・特支)。全員授業を公開する。
- ・全校研は、低・中・高部会から1本ずつで、計3本行う。それ以外は、学年層で公開する。全校研の教科は国語科。学年層の授業研については、教科は問わない。魅力的な単元づくりや教師の出場などの授業づくりで大切にすることを念頭に置くこと。
- ・授業検討シートを活用して事後研修会を行い、必ず事後研後に授業者にシートを渡す。
- ・市の担当などで授業が当たっている場合は、そちらを優先する。(授業研はどちらでもよい)
- ・自主公開の授業は大歓迎です。
- ・講師先生は、兵庫教育大学大学院 勝見 健史教授。